農学アカデミー便り 第117号

第23回総会は書面議決にておこないます

第23回総会は、書面議決にて開催いたします。

会員の皆さまへは、7月3日に、総会資料を郵送いたしました。同封されています返信用はがき(「書面表決書」)に、ご署名及び各議案への賛否をご記入いただき、期日までにご提出くださいますようお願いいたします。議案の可決につきましては、ご提出いただいた「書面表決書」のうち、賛成が過半数を超えた場合、可決となります。ご協力のほど、お願いいたします。

日本農学アカデミー会報 第33号が発行されました

会報第33号「ICTが変える食料・農業・農村」が発行され、ホームページに掲載されました。 是非、ご覧ください。

コミュニティベース精密農業の課題と展望 澁澤 栄

スマート農業の現状と展望 ―経営視点で未来農業を考える― 南石晃明

水利システム管理における問題点と ICT 利用の現状、今後の展開方向 髙木強治

デジタルコミュニケーション技術を活用した新たな農村計画のビジョン 鬼塚健一郎

スマート農業技術開発の現状と今後の課題 原田久富美

新入会員をお迎えしました

中島 隆 氏 農研機構 理事(研究推進担当 Ⅲ)

第19回日本農学進歩賞の推薦について

第19回日本農学進歩賞の公募期間は、7月1日~7月31日(必着)です。

日本農学アカデミー会員には、推薦権が付与されています。詳細ならびに推薦方法につきましては、 公益財団法人農学会ホームページをご覧ください。

日本農学アカデミー理事会をオンラインで開催しました。

日本農学アカデミー理事会を、7月2日に、オンライン(zoom)で開催いたしました。 北は北海道、南は大阪まで、多くの出席者を得て、無事、終了いたしました。

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会所属分科会の最近の活動について

○農学委員会·食料科学委員会合同

IUSS 分科会 (委員長:南條正已 東北大学名誉教授)

2020年1月17日にIUSS 事務局からIUSS 名誉会員への推薦依頼があり、関連学会と連絡を取りつつ1名を推薦した。また、2020年8月30日~同年9月4日に英国グラスゴー市で開催予定であったIUSS 中間会議は同年11~12月に延期されるが、代表を派遣する予定である。

CIGR 分科会 (委員長:野口伸 北海道大学大学院農学研究院教授)

2020年1月10日に第24期第4回分科会を開催した。World Congress 2022(12月5~9日、京都国際会議場)の準備状況を確認し、また日本学術会議会長宛の2022年度共同主催国際会議申請書案を審議した。COVID-19の影響で、2020年9月開催予定のCIGR Plant Factory and Intelligent Greenhouse WG(PFIG-WG)国際ワークショップを中止した。

裏面へ

PSA 分科会(委員長:土屋誠 琉球大学名誉教授)

2019 年 10 月 25 日に第 3 回分科会を開催した。本分科会の重要な役割である畑井メダル授賞候補者の選定を行うとともに、今後の選考方法について意見交換を行った。選考については、本分科会内に設置した選考委員会による選考結果を承認し、山極会長に受賞候補者を推薦した。次回太平洋学術会議は、COVID-19 の影響を受け当初の開催時期が変更され、2020 年 11 月 30 日~12 月 4 日に中国の汕頭で開催される予定である。

IUNS 分科会 (委員長:加藤久典 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

2021 年 9 月 14 日から 19 日に東京国際フォーラムで開催される第 22 回 IUNS 国際栄養学会議 (ICN 2021) の準備を IUNS 理事会と連携を取りながら行っている。ICN 2021 の共同主催国際会議申請書を日本学術会議に提出し、ヒヤリングを受け、採択された。プログラムの大枠は固まり、現在、Second circular の作成を行っているところである。

○基礎生物学委員会·農学委員会·食料科学委員会·基礎医学委員会·臨床医学委員会合同 IUMS分科会(委員長:上田一郎 北海道大学名誉教授)

世界的な新型コロナ感染症の流行の中で、来る 10 月 12~16 日に韓国で開催予定の International Union of Microbiological Societies 2020 Congresses が行われるか、情報交換を行っている。

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

新型コロナウィルス感染阻止対策のため、シンポジウム、セミナー等の開催は引き続き自粛されています。よって**7**月についても開催情報のお知らせはありません。

編集後記

今月の総会(書面会議)において第 11 期日本農学アカデミーが始動します。第 10 期の農学アカデミー便りにおいては、様々な立場の理事の方々から所感の投稿をいただき掲載してまいりました。幅広い農学、大学、産業、生産、環境等との関係を考える機会になりました。皆様のご協力に感謝いたします。第 11 期の農学アカデミー便りの内容も検討中です。引き続きご意見をいただければ幸いです。(倉田のり 広報担当)

日本農学アカデミー事務局 **203-5410-0242 ≥** jssf2@ab.auone-net.jp

農学アカデミー便り 第118号

日本農学アカデミー第 11 期開始に当たって 第 11 期会長 大政謙次

会員の皆様には、新型コロナウイルス感染症のために、色々とご苦労をされているのではと推察します。日本農学アカデミーでも、3月の(公財)農学会との共催シンポジウム「家族経営農家の飽くなき挑戦と地域創生」が開催延期になり、7月の総会がメール審議、また、総会時のミニシンポジウムが中止になり、会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけしています。

前期の課題であった財政の健全化は、会員の皆様や(公財)日本学術協力財団のご協力でほぼ達成をされ、また、会員も昨年度は12名増、今年度も現在まで漸増の状況にあります。第11期の役員や事業計画・予算は、7月の理事会、総会でご承認いただきました。一部、充職でお願いしている役員を除いて、前期に引き続き、継続で、本アカデミーの運営にあたることになりました。なお、昨年の総会で、特別顧問の承認の手続きに不備があり、再度、承認手続きをさせていただきました。新たに特別顧問になられた先生には、大変ご迷惑をおかけしたことを、この場を借りて、お詫び申し上げます。

例年、秋に予定していますシンポジウムは、**11**月**7**日に、(公財)農学会との共催で、「農学分野におけるウイルス病とのたたかい(仮)」を予定しています。新型コロナウイルス感染症の状況により、東京大学農学部弥生講堂での開催とテレビ会議システムを用いたオンライン開催の両方で検討をしています。会員の皆様には、色々とご迷惑をおかけしますが、引き続き、ご支援の程、よろしくお願いします。

第23回総会(書面審議)のご報告

書面にて行いました第 23 回総会は、原案どおり、議決、承認されました。ご協力をありがとうございました。結果の詳細につきましては、別紙報告書をご覧ください。

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会所属分科会の最近の活動について

○農学委員会所属

農学分科会(委員長:大杉立 八ヶ岳中央農業実践大学校副校長)

報告「日本における農業資源の潜在力を顕在化するために生産農学が果たすべき役割」について議論を重ね、6月11日に幹事会で説明を行った。その後、幹事会委員からの質問、コメント等に対応しており、8月公表を目指している。

育種学分科会(委員長:経塚淳子 東北大学生命科学研究科教授)

ゲノム編集に関するシンポジウムの開催を予定している。5月24日に予定していたシンポジウムはコロナ問題により開催を断念し、秋以降に改めて開催する予定である。しかしながら、秋以降の開催も不確定であることから、オンラインでの開催の検討を進めている。

農業経済学分科会(委員長:小田切徳美 明治大学農学部教授)

今期テーマである「農業経済学の新しい分析力を考える」にかかわり、公的統計と個別企画調査の論点の明確化が議論されている。日本農業経済学会大会(東北大学)の開催中止に伴い、3月、4月に予定していた分科会を中止したが、メンバーにより、フィールドワーク調査にともなう調査倫理(データの取得・分析・補完・廃棄等)のあり方について検討を進めている。

○食料科学委員会所属

水産学分科会(委員長:古谷 研 創価大学理工学研究科教授)

2020年7月17日に第12回分科会をWeb会議として開催し、中長期的な水産資源利用について第24期の活動を総括して、次期に向けた課題を整理した。公開シンポジウム「東北マリンサイエンス拠点形成事業と今後の水産研究のあり方―豊かな海へ、科学の力で―」(2020年11月13日開催予定)の開催に向けて準備を進めている。

畜産学分科会(委員長:眞鍋昇 大阪国際大学学長補佐教授)

第6回分科会から「地球規模で家畜伝染病が蔓延する中でのアニマルウェルフェアに準拠した家畜飼養衛生管理に関わる現状と課題」についてオンライン議論を継続し、2020年8月7日にオンライン開催した第7回分科会(コロナ禍のため3月28日開催を断念)で取り纏め、オンライン公開シンポジウム「2030年に向けたこれからの畜産学の方向性と最先端技術の展開」にて成果を公表すべく開催準備している。

獣医学分科会(委員長:髙井伸二 北里大学獣医学部獣医学科教授)

2020 年 5 月 16 日に公開シンポジウム「One health:新興・再興感染症~動物から人へ、生態系が生み出す感染症~」と分科会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期致した。新型コロナウイルス感染症の話題を追加し、オンラインでシンポジウム等を年内(11月頃?)に開催する予定である。

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

日本学術会議公開シンポジウム

「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」(本アカデミー後援)

日時:令和2年8月10日(月)13時00分~17時30分

場所:ウェブ開催 (Zoom)

詳細は、アカデミーHP をご覧ください。http://www.academy-nougaku.jp/symposium2.html

第11期日本農学アカデミー役員名簿

会長・理事	大政謙次	理事	沢田治雄
副会長・理事	大杉 立	理事	嶋田 透
副会長・理事	佐々木昭博	理事	進士五十八
副会長・理事	生源寺眞一	理事	中島 隆
副会長・理事	鳥居邦夫	理事	中嶋康博
副会長・理事	長澤寛道	理事	中谷 誠
理事	石塚真由美	理事	松田 幹
理事	岩永 勝	理事	和田時夫
理事	勝田真澄	理事	渡部終五
理事	門脇光一	監事	梅本 雅
理事	倉田のり	監事	小泉 健

編集後記

農学アカデミーの第 11 期が始動いたしました。第 11 期からは、農学アカデミー便りは、新たに責任担当役員を嶋田透理事にお引き受けいただくことになりました。次号 9 月号から嶋田理事に中心となって担当いただきますので、会員の皆様方には引き続きのご協力をお願いいたします。10 期 2 年の間、ご協力・ご支援いただきましたこと感謝申し上げます。

(倉田のり 第10期広報責任担当理事)

農学アカデミー便り 第 119 号

令和2年度日本農学アカデミー・(公財)農学会共同主催 公開シンポジウムを開催します

日本農学アカデミーでは、例年、7月の総会後にミニシンポジウムを開催し、そこでの議論をもとに、 秋の一般向けシンポジウムを企画しておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ミニシンポジウムは中止のやむなきに至りました。秋のシンポジウムについては、7月の理事会において検討し、「農学分野におけるウイルス」に関する内容で開催することとしました。新型コロナウイルスが市民生活全体に大きな影響を与えている中で、社会的な関心が高いトピックです。具体的テーマ、日時、登壇者は下記のとおりです。開催方法は、新型コロナウイルスの現在の状況を踏まえてオンライン開催(zoom)とし、準備を進めています。今回のオンライン開催にご参加いただくためには、事前申し込みが必要になります。申込方法は、9月中に日本農学アカデミーHPに掲載します。皆様、是非、ご予定ください。

(副会長 佐々木)

「ウイルスとたたかう農畜水産」

日 時: 令和2年11月7日(土)13時00分~17時00分(予定)

場 所:オンライン開催 (zoom)

登壇者:基調講演:甲斐知恵子先生(東京大学)

家畜・家禽:真瀬昌司先生(農研機構)/水産:佐野元彦先生(東京海洋大学)/

昆虫:勝間進先生(東京大学)/植物:増田税先生(北海道大学)

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会所属分科会の最近の活動について

○農学委員会所属

農業生産工学学分科会(委員長:仁科弘重 愛媛大学理事・副学長)

3 月に大阪府立大学で開催予定であった公開シンポジウム「都市農業における資源循環や効率的なエネルギー利用の可能性」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期していたが、9 月30 日午前に、当初予定とほぼ同じ内容で、オンライン開催することとした。分科会も9月18日にWeb開催する。

地域総合農学分科会報告(委員長:宮崎毅 東京大学名誉教授)

6月12日開催予定の公開シンポジウム「農業農村地域でのICT (情報通信技術) 社会実装における課題」は、新潟市と協力してICT 社会実装事業に取り組んでいる民間会社社長の招致を決定するなど、準備が完了していたが、新型コロナウイルス拡大の影響を受け中止となった。

林学分科会(委員長:丹下健 東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

都市の建築物での木材貯留量の増大を目指して、非住宅用の中高層建築物の木造化促進の課題解決に向けた提言「地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進」を 6 月 19 日に発出し、日本森林学会のホームページ等での広報を行った。

○農学委員会・食料科学委員会合同

農芸化学分科会(委員長:熊谷日登美 日本大学生物資源科学部教授)

第 24 期では、シンポジウムを 6 回、サイエンスカフェを 10 回開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、現在は開催できていない。9 月 29 日の農芸化学分科会で、今後の対応について話合う予定である。

裏面へ

農業情報システム学分科会(委員長:澁澤栄 東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)

提言「人口縮小社会における農業情報科学の課題と展望」が幹事会承認され、9月7日に公開される。9月28日に第24期最後の分科会をWEB開催し、次期の課題や引継事項について審議する。

東日本大震災に係る食料問題分科会(委員長:澁澤栄 東京農工大学卓越リーダー養成機構 特任教授)

9月7日に第24期最後の分科会をWEB開催し、次期の課題や引継事項について審議する。

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

2020年度日本農学会公開シンポジウム

「水と農学」

日時: 令和2年10月3日(土)13時00分~17時00分

場所:ウェブ開催(Zoom)

URL: http://www.ajass.jp/Sympo/2020sympo.html

農研機構・カセサート大学・FFTC 共催 国際シンポジウム

「スマートフードバリューチェーン 一新たなアジアの食品流通に向けて」

日時: 令和2年10月29日(木)10時00分~18時10分

場所:オンライン、東京会場(50名)

URL: https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2020/08/136397.html

編集後記

倉田のり理事の後任として広報(農学アカデミー便り)担当を仰せつかりました。農学アカデミー便りは、会報とともに当アカデミーの重要な情報媒体ですので、定期的な発行と有益な情報発信を両立できるように努めてまいります。微力ではありますが、会員各位のご協力を得て編集を進めてまいりますので、どうかよろしくお願いします。

新型コロナウイルスの感染拡大は社会・経済に大きな悪影響を与えており、もちろん農業・食産業も例外ではありません。このアカデミー便りをお読みの皆様も、さまざまな戸惑いのなかで、例年とは違う日常をお過ごしのことと思います。農学研究においても、ラボワーク、フィールドワークともに大きな制約が課されており、計画通りに進捗していないプロジェクトも多いのではないかと心配しています。まもなく秋の学会シーズンを迎えますが、対面で大会を開催する学会はほとんどなさそうです。今春には大会を中止・延期した学会がほとんどでしたが、秋以降は、オンラインで大会を行う学会が増えてきそうです。もともと、農学分野では、地方に研究拠点をもつ研究者が多く、さらに普段海外で活動している研究者も少なくないので、オンライン大会にはメリットもあるように思います。この農学アカデミーの活動も、しばらくは、会報やアカデミー便りはもちろん、オンラインでのシンポジウムなどが中心になるでしょう。そうは言っても、やはり現状のままで「ウィズコロナ」が長期化するのは避けたいところです。ワクチン開発などの感染症対策が奏功し、産業・経済活動と学術活動が早期に正常化することを期待します。

(第11期広報責任担当理事 嶋田 透 学習院大学教授)

農学アカデミー便り 第 120 号

令和2年度日本農学アカデミー・(公財)農学会共同主催 公開シンポジウムを開催します

日本農学アカデミーでは、公益財団法人農学会とともに、公開シンポジウム「農学分野におけるウイルス」を 11 月 7 日(土)にオンライン(zoom ウェビナー)で開催いたします。

ご参加いただくためには、事前申し込みが必要になります。下記 QR コードからお申込みいただくか、 事務局までご連絡ください。また、zoom での参加方法がお分かりにならない場合は、お気軽に事務局ま でお問い合わせください。

「ウイルスとたたかう農畜水産」

日時:令和2年11月7日(土)13時00分~17時15分

場所:オンライン開催(zoom ウェビナー)

プログラム:

総合司会:日本農学アカデミー副会長 佐々木昭博 開会挨拶:日本農学アカデミー会長 大政謙次

【基調講演】新型ウイルスは動物からヒトに感染する ―農学への影響―

東京大学生産技術研究所特任教授 甲斐知恵子

【家畜・家禽】家畜・家禽におけるウイルス病

(国研) 農研機構動物衛生研究部門ウイルス疫学研究領域長 真瀬昌司

【水産】水産養殖におけるウイルス病とのたたかい

東京海洋大学海洋生物資源学部門教授 佐野元彦

【昆虫】昆虫ウイルスの制御と利用

東京大学大学院農学生命科学研究科准教授 勝間 進

【植物】植物ウイルスを知れば利用してみたくなる!―知られていない植物ウイルスの世界― 北海道大学農学部植物病原学研究室教授 増田 税

総合討論

司会:日本農学アカデミー副会長 鳥居邦夫

閉会挨拶: (公財) 農学会会長 古谷 研

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会所属分科会の最近の活動について

○農学委員会所属

応用昆虫学分科会(委員長:小野正人 玉川大学学術研究所所長)

今期の総括と第 25 期への引き継ぎ事項を確認した。コロナ感染症対策のため中止した公開シンポジウム「インセクトワールド―多様な昆虫の世界 Ⅱ―」を 2021 年 6 月に開催することとした。2024 年国際昆虫学会議(ICE2024)の京都開催が決定し、開催準備の検討に入った。

植物保護科学分科会(委員長:松本宏 筑波大学生命環境系教授)

2019 年 11 月 30 日に東京大学において、公開シンポジウム「持続可能な百寿社会に貢献する植物保護科学」を開催したが、新型コロナ感染症拡大を受け、今年度のシンポジウム開催は見送ることとした。10 月からの新体制の下で今後の活動計画を策定する。

○農学委員会・食料科学委員会合同

遺伝子組換え作物分科会(委員長:佐藤文彦 京都大学名誉教授)

新型コロナウイルスの感染拡大が継続していることから、分科会をオンライン開催し、今期の活動を記録「ゲノム編集食品の現状と社会受容について」として取りまとめた。また、次期の分科会のあり方について、ゲノム編集に限定するのではなく新育種技術まで拡張するか、また植物以外の生物を含めるか等、意見交換を行った。

農学分野における名古屋議定書関連検討分科会(委員長:大杉立 八ヶ岳中央農業実践大学校 副校長)

2月5日に、遺伝資源分科会と合同で第24期第3回分科会を開催した以降は分科会を開催していない。10月に開催されるCOP15での国際的議論の動向等を踏まえてどのような議論を行っていくかが次期の検討事項となる。

食の安全分科会(委員長:石塚真由美 北海道大学大学院獣医学研究院教授)

公開シンポジウムについて、コロナ感染症の状況のため延期となっていた二つのシンポジウムの開催が決定した。11月14日に「One health:新興・再興感染症~動物から人へ、生態系が産み出す感染症~」、12月5日に「食の安全と環境ホルモン」をオンラインで開催することとなり、準備を進めている。

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

日本学術会議食料科学委員会/食料科学委員会獣医学分科会/

農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会/人と動物の共通感染症研究会

「One health:新興・再興感染症~動物から人へ、生態系が産み出す感染症~」

日時: 2020年11月14日(土)13時30分~17時20分

場所:オンライン開催

URL: http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/297-s-1114.pdf

日本学術会議食料科学委員会/農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会/ 食料科学委員会獣医学分科会/食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同毒性学分科会 「食の安全と環境ホルモン」

日時: 2020年12月5日(土)13時30分~17時30分

場所:オンライン開催

URL: http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/297-s-1205-2.pdf



理事所感 ――シリーズ第 18 回

この4月から長野県にある八ヶ岳中央農業実践大学校(八農)に副校長として赴任している。 八農は高校卒業後の2年間実践的に農業を学ぶことができる専門学校である。座学もするが、認 定農業者の資格を持つ八農の野菜、花卉、酪農、養鶏の各分野で売れるもの作りを通じて農業の 実際を学んでいく。私は農水省の最初の赴任地が那須の草地試験場(当時)で、そこで牧草の光 合成の研究をしていたこともあり、酪農には親しみがあるが、その他の分野は初めてで新鮮な気 持ちで接している。農業の担い手不足が叫ばれているが、農業者の卵を育てる八農も学年定員 30 名のところ今年の1年生が13名、2年生が22名と厳しい状況にある。実践を協調するため若干 スパルタ的な教育になっており、現代の若者には受けがよくない面もある。いわゆる3K(きつ い、汚い、危険(給料低い))から新3K(かっこいい、稼げる、効率的)に農業のイメージが変 わりつつあるように、八農の実践教育も新3Kをもとにした形に変わっていくことも必要であ る。グローバル GAP の取得なども目指しながら、古希の老体に鞭打って頑張っていこうと思って いる。 (理事 大杉 立 八ヶ岳中央農業実践大学校副校長)

日本農学アカデミー事務局 203-5410-0242 図 jssf2@ab.auone-net.jp

農学アカデミー便り 第 121 号

「日本学術会議第25期新規会員任命に関する要望書を支持する声明」を発出しました

日本農学アカデミー理事会は、10月15日に、一般社団法人日本農学会理事会、公益財団法人農学会理事会と共同で、「日本学術会議第25期新規会員任命に関する要望書を支持する声明」を発出し、ホームページに掲載しました。

日本学術会議第25期新規会員任命に関する要望書を支持する声明

2020年10月15日

一般社団法人日本農学会 理事会 公益財団法人農学会 理事会 日本農学アカデミー 理事会

日本学術会議会員推薦者の任命に関して、日本学術会議第 181 回総会における第 2 5 期 新規会員任命に関する要望書(令和 2 年 10 月 2 日付)の内容を支持します。

以上

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会の活動について

2020年10月1日より日本学術会議第25期の活動が開始されました。農学委員会、食料科学委員会の両委員長より、委員会の活動についてご紹介いただきます。

○農学委員会の紹介(委員長:仁科弘重 愛媛大学理事・副学長)

農学委員会は、農林水産業の中で植物を利用した生産である農林業に係るさまざまな技術、経済学、環境学に関する学術を深化させ、その学術研究の成果を広く社会に発信する活動を行っています。本委員会が主担当をしている分科会には、CIGR(国際農業工学会)、IUMS(国際微生物学連合)、IUSS(国際土壌科学連合)、農学、育種学、農業経済学、農業生産環境工学、地域総合農学、林学、応用昆虫学、土壌科学、植物保護科学、遺伝子組換え作物、農学分野における名古屋議定書関連検討の 14 の分科会があり、各専門分野の学術活動を進めています。この他に、第二部の他の委員会と合同で 10 の分科会を設置しており、多様かつ広範な学術領域との連携を進めています。第 25 期が始まり、これまでの活動と成果を踏まえて、農学のさらなる発展を目指していきます。

○食料科学委員会の紹介(委員長:古谷研 創価大学大学院理工学研究科教授)

食料科学委員会は、食料の生産と供給および消費に関する学術課題を取り上げ、持続可能な農林 水産業および地域コミュニティを目指した研究報告や提言活動を進めています。本委員会が主担当 をしている分科会には、IUNS(国際栄養科学連合)、PSA(太平洋学術協会)、水産学、畜産学、 獣医学、農芸化学、農業情報システム学、食の安全、東日本大震災に係る食料問題の9分科会があ り、各専門分野の学術活動を進めています。このほかにも他の委員会との合同で活動する6分科会 があり、広汎な学問領域との連携を進めています。第 **25** 期が始まり、これまでの活動と成果を踏まえてさらに食料科学の発展を目指して参ります。

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

日本学術会議食料科学委員会/食料科学委員会獣医学分科会/

農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会/人と動物の共通感染症研究会

「One health:新興·再興感染症~動物から人へ、生態系が産み出す感染症~」

日時: 2020年11月14日(土)13時30分~17時20分

場所:オンライン開催(WebEx)

URL: http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/297-s-1114.pdf



農研機構遺伝資源センター主催

「第7回 アジア植物遺伝資源 (PGRAsia) シンポジウム」

日時: 2020年11月17日(火)13時15分~14時45分

場所:オンライン開催(GigaCast 配信システム) URL:https://cloud.gigacast.tv/Live/Site/67uW4O

農研機構サイエンスカフェ

「第21回 作物に寄生する線虫~土壌中の知られざる寄生者~」

日時: 2020年11月21日(土)10時00分~11時30分

場所:食と農の科学館(茨城県つくば市観音台 3-1-1) 定員 30 名

URL: https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/sciencecafe_21th

日本学術会議食料科学委員会/農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会/ 食料科学委員会獣医学分科会/食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同毒性学分科会 「食の安全と環境ホルモン」

日時: 2020年12月5日(土)13時30分~17時30分

場所:オンライン開催(WebEx)

URL: http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/297-s-1205-2.pdf



理事所感 ――シリーズ第 19 回

最近はあまり目にしなくなったが、「健康優良児」という言葉がある。元々は新聞社が主催し文科省なども後援して始まった教育的な表彰事業の名称であったものが、その後一般化したようである。当時の我が国の食生活では栄養は十分ではなく、児童・生徒の健全な成長のために食生活の改善や栄養指導が官民一体でなされていたものと思われる。経済成長による食生活水準の向上もあり、近年では子どもの体格もずいぶん良くなり、体力、身体能力に優れた日本の若者がトップアスリートとして世界で活躍している。栄養指導などの指針として「健康の保持・増進を図る上で摂取することが望ましいエネルギー及び栄養素の量の基準を示した『日本人の食事摂取基準』(厚労省)」がある。この基準には「日本食品標準成分表」(文科省)に示される食品栄養成分の基礎的データが用いられている。これらの科学的根拠として、栄養生理・生化学および食品化学の基礎研究成果が大きく貢献しており、それには農学領域の研究者も重要な役割を担ってきた。最近は、農学関連分野での研究者の減少と高齢化が懸念される。健康優良高齢者の健康労働寿命の延伸に支えられているのかもしれない。(理事 松田 幹 福島大学教授)

農学アカデミー便り 第 122 号

シンポジウム「ウイルスとたたかう農畜水産」を開催しました

日本農学アカデミーと公益財団法人農学会の共同主催によるシンポジウム「ウイルスとたたかう農畜水産」を、11月7日(土)に開催しました。今回は、新型コロナウイルスの感染が収束しない中、オンライン(zoom)での開催となりました。

はじめに、甲斐知惠子先生(東京大学)から、動物由来のエマージングウイルス感染症を中心とする講演をいただいた後、真瀬昌司先生(農研機構)、佐野元彦先生(東京海洋大学)、勝間進先生(東京大学)、増田税先生(北海道大学)から、それぞれ畜産、水産、昆虫、植物におけるウイルスの話題を提供していただきました。総合討議では、鳥居邦夫副会長による進行で、動植物の病気の原因となるウイルスとのたたかいという側面のみならず、生物農薬や有用物質生産などへのウイルス利用を含め、多面的な議論が展開されました。途中、進行役の鳥居先生に対する応援チャットが入るなど、オンラインならでは面白さもありました。当日の最大接続人数は 149 名と、多くの方にご参加いただきました。今、社会的に大きな関心を持たれているウイルスについて、一般の方にも知っていただける貴重な機会になったのではないかと思います。

日本農学アカデミーシンポジウムのオンライン開催は初めての試みでしたが、全体としては大きな混乱もなく進めることができました。オンライン開催を技術面でサポートしていただいた東京大学・渡邊壮一先生には、この場をお借りして御礼申し上げます。 (副会長 佐々木昭博)

日本学術会議農学委員会、食料科学委員会所属分科会の最近の活動について

○農学委員会所属

土壌科学分科会(第24期委員長:南條正已東北大学名誉教授、第25期世話人:丹下健東京大学教授)

第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープランに「東日本大震災からの復興農学拠点」を応募し、学術大型研究計画(区分 I, 146 件)の一つとなった。今期の主な審議事項としてきた「都市域土壌の現状と課題」について報告を公表した。第 25 期への引き継ぎ審議事項候補として、「土壌問題の植物栄養学への展開、土壌保全基本法、土壌教育」が挙げられている。

○農学委員会·食料科学委員会合同

CIGR分科会(世話人:高山弘太郎 豊橋技術科学大学·愛媛大学教授)

国際農業工学会 (CIGR) のわが国の窓口として、世界の食料生産・環境問題の解決を目指し、CIGR と日本農業工学会の協力により国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。具体的には、2022 年 12 月 5~9 日に京都で開催予定の The XX CIGR World Congress 2022 の企画と運営を前期に引き続き行う。

IUNS分科会(世話人:熊谷日登美 日本大学教授)

日本学術会議との共同主催となっている第 22 回 IUNS 国際栄養学会議 (ICN 2021) について、2021 年 9 月にウェブ開催にするか、2022 年 12 月に延期して東京国際フォーラムで行うかを、IUNS 理事会と連携を取りながら検討している。11 月末には方向性が決まる予定である。

IUSS 分科会(第 24 期委員長:南條正已 東北大学名誉教授、第 25 期世話人:丹下健 東京大学教授)

2023-24 年任期の会長選挙に対して国内研究者の意向を集約し、日本の代表機関として投票を行った。IUSS 百周年および「国際土壌の十年」の 10 年目 (2024 年) に向けて実施中の personal history の募集企画に国内から選出されている IUSS 現名誉会員 3 名のインタビューファイルとその要旨を応募し、IUSS 事務局に受領された。2020 年 11 月 18~23 日にオンライン開催となった IUSS 中間会議に代表派遣を行う。

PSA 分科会 (第 24 期委員長:土屋誠 琉球大学名誉教授、第 25 期世話人:古谷研 創価大学教授)

太平洋学術会議は COVID-19 の影響を受け当初の開催時期が延期され、2020 年 11 月 30 日から中国の汕頭で開催される予定となっていたが、さらに延期され、来年 6 月 28 日~7 月 2 日に汕頭大学の主催で開催される予定である。プログラム、登録開始日、要旨の提出期限等については未定である。

2020 年度 (第19回) 日本農学進歩賞受賞者が決定しました

氏名	所属	研究業績課題名
浅井秀太	理化学研究所	卵菌綱植物病原菌の感染機構に関する研究
壁谷尚樹	東京海洋大学学術研究院	水産動物の多価不飽和脂肪酸生合成能の解明
神川龍馬	京都大学大学院農学研究科	海洋真核微生物の次世代利用に向けたゲノム生物
	次都八千八千匹展于明九州 ————————————————————————————————————	学的研究
後藤達彦	帯広畜産大学グローバルアグロメデ	ニワトリの卵および成長形質を支配する遺伝的基
	ィシン研究センター	盤の解明
杉山暁史	京都大学生存圈研究所	根圏での二次代謝産物の動態と機能に関する研究
田中若奈	広島大学大学院統合生命科学研究科	イネの小穂と分げつの形態形成に関する分子遺伝
		学的研究
藤澤秀次	東京大学大学院農学生命科学研究科	セルロースナノファイバーの表面精密修飾と複合
		材料化
真方文絵	東京大学大学院農学生命科学研究科	細菌毒素による乳牛の卵巣機能障害の病態解明と
		新規治療法の開発
宮本潤基	東京農工大学大学院農学研究院	食由来栄養シグナルに基づく宿主生体恒常性維持
		機構の解明
門田有希	岡山大学農学部	高次倍数性作物種における遺伝育種学的解析と品
		種識別技術の開発
山下陽子	神戸大学大学院農学研究科	難吸収食品成分の機能性に関する時空間的制御機
	作厂八十八十四层十四九件	構の解明

今後の関連シンポジウム等のお知らせ

農研機構 研究成果発表会 [地球温暖化対策の要請に応える日本の家畜生産]

日時: 2020年12月18日(金)13時00分~17時00分

場所:オンライン開催(zoom 利用予定)

URL: http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2020/11/137325.html

理事所感 ――シリーズ第 20 回

今年も日本の水産業にとっては大変な年であった。春先からの新型コロナウイルスの感染拡大により水産物の需要が減少し、生産や貿易も停滞した。夏にはスルメイカの漁獲が伸び悩み、秋にはサンマやサケが不漁であった。特にサンマの不漁は深刻で、10月末までの漁獲量は僅か1.3万トン。史上最低であった昨年の4万トンを下回ることは間違いない。一人マイワシだけが漁獲量を伸ばしているが、分布・回遊も以前とはズレており、太り具合も今一つである。近年、日本の周りの海が変化していると感じる。水温上昇の影響に加え、北海道から三陸沖にかけては親潮の張り出しが弱くなっている。餌となるプランクトンの分布も変化しており、漁況不振の一因として海の生産力の低下を指摘する声もある。私たちができることには限りがあるが、見通しを示して経営的な対応を支援すること、漁獲を抑えて減った資源の回復を図ること、獲ったものを無駄なく利用することなどは、直ぐにでもできる対策である。現状に柔軟に対応しつつ状況の好転を期待したい。(理事・(一社)漁業情報サービスセンター会長 和田時夫)